

合唱団ホームページアドレス <http://www.wiengifu.org>

音楽とは 横への感性なり!

1

月号

2019年1月10日
編集・発行/
ウィーン岐阜合唱団

岐阜の街 ウィーンの如く 音楽し 作:音楽総監督 平光 保

明けましておめでとうございます

昨年末の“第九”は、20回目にふさわしい記念すべく素敵な“第九”になったと思っています。

特に、第3楽章ではエリージウム(楽園の世界)を彷彿とさせる至福の世界を連想させてくれます。このようなベートーヴェンの精神を醸し出すのは大変な集中力が要求されます。“第九”を指揮して一番緊張するのが第3楽章です。上手く行った時には計り知れぬ喜びを感じるのもこの楽章です。私の一番好きな楽章でもあります。臼井団長が1,2楽章も良かったけど、第3楽章になると増々目が覚めたとの事。今までで一番の第3楽章でした。

続く第4楽章は、1楽章、2楽章、3楽章と総括されたモチーフに、新たな“喜びのテーマ”が加わる壮大な楽章です。バリトンのソリストが4楽章の途中で、神の威厳をもって歌いながら入場する演出を今回のソリスト

伊藤貴之氏が、先日、他の“第九”でもこのスタイルで行ったとの事。発祥の地、ウィーン岐阜でのアイデアが全国に広まりつつあるようです。

昨年の第9回ヨーロッパ“第九”音楽友好の旅、“カウナス”でもこのスタイルでやって頂きましたが、今後世界中に広まるのを願っています。

今年、夏の定期演奏会は、“水のいのち”と“ラシーヌの雅歌”です。水のいのちは、輪廻を彷彿とさせる宗教的な色彩の曲。ラシーヌは、まさしく神を讃美する宗教曲。2曲とも合唱曲の最高峰と言える素敵な曲です。夏の定期演奏会の成功を夢見ながら、年男の私が猪突猛進で皆様を引っ張って行きたいと思っています。

ウィーン岐阜管弦楽団・合唱団

音楽総監督 平光 保



第20回第九演奏会 皆勤者の皆さん

岐阜本部

ソプラノ 中村愛子 辻多恵子
アルト 棚橋清江 永縄郁代 山下千恵子
バリトン 臼井博育 和田錠治

大垣支部

ソプラノ 河田尚美 山口水篤
アルト 臼井玲子 岡野久子
テノール 宇佐美利夫

団員の皆様 新年明けましておめでとうございます

ウィーン岐阜合唱団 団長 臼井博育

マエストロ平光の“第九演奏”の烈しい指揮が終わり若干の静寂の後、沸き起こる拍手、喝采、ブラボーの歓喜の声が、会場中に充ち溢れました。

1998年8月にウィーン岐阜合唱団の「第1回第九演奏会」が開かれ、今回で記念すべき第20回目の節目となる演奏会も成功裏に幕を閉じることができました。平光総監督の指揮の下、多くの先輩たちが築いてこられた合唱団の歴史の重みを全団員が感じながら歌い上げた“第九”は、今年の第21回目に向けてのスタートになったと思います。

私は、大晦日のNHK Eテレ20時からのN響「第九演奏会」を聴いて年を越します。私が第九に魅せられる理由として、その壮大、荘厳さもさることながら、やはり人類の歴史的文化遺産であるベートーヴェンの交響曲第九番にオーケストラと共に関わることができ、第4楽章で思い切り腹の底から歌い上げることに大きな喜びを感じています。

今回の演奏会に890人ものお客様に入場して頂きました。これも団員、一人ひとりのご努力の賜物であり感謝申し上げます。また、東北大震災への義援金も45,196円となり今回も真由子先生を通じて福島県蓮笑庵・くらしの学校へお送りさせていただきます。因みに2011年から毎年行っております義援金は、現在、総額1,791,457円となりました事をご報告いたします。

昨年の合唱団の関係した行事等を振り返りますと、

- オペラ杉原千畝物語（ぎふ清流文化プラザ1月27日・28日）ユダヤ難民役で出演
- ウィーン岐阜合唱団創立20周年記念パーティー（岐阜グランドホテル2月25日）
- 垂井町音楽祭（第九）（垂井町文化センター3月18日）
- 春の合宿（コージュ高鷲4月21日・22日）
- ヨーロッパ音楽・友好の旅（カウナス・フィルハーモニーホールで第九演奏会）
超満員のお客様から拍手喝采、手拍子、スタンディングオベーションの大歓迎をいただきました
- ねんりんピック総会（ぎふ清流プラザ7月9日）
- 第21回定期演奏会「ぞうれっしゃがやってきた」（岐阜市民会館7月29日）
団員の皆様のご努力があって入場者792人、義援金106,418円
- ねんりんピックフラッグツアー（岐阜メモリアルセンター9月29日）
- 紅葉ツアー 10月28日、29日高山の合唱団の皆様と交流
- 垂井町音楽祭「第九」（垂井町文化センター11月25日）
- 大阪1万人第九（大阪城ホール12月2日）
- 大垣第九「市制100年」（大垣市民会館12月16日）
- 第20回第九演奏会「第九、ハレルヤ他」（長良川国際会議場12月24日）

他

大変多忙な1年でしたが、平光先生によるとウィーン岐阜合唱団は総合的に着実に、確実にレベルアップしてきており、2019年の更なる飛躍が予感されます。

2019年のスケジュールをみてみますと、

1. オペラ杉原千畝物語（ぎふ清流文化プラザ1月26日・27日）
2. 春の合宿（コージュ高鷲5月25日・26日）
3. 第22回定期演奏会「水のいのち・ラシーヌの雅歌」（岐阜市民会館7月28日）
4. 飛騨高山1000人の第九（12月15日）
5. 第21回第九演奏会（長良川国際会議場12月22日）

等々他にも予定しております。

今年も昨年に負けず劣らず多くの行事が目白押しです。団員の皆さんが都合のつく限り一番大切な毎週の練習に参加して頂き、尚且つ多くの行事に参加して頂けたらと思います。団員同志の交流の中で仲間の輪を作り、音楽のハーモニー、心のハーモニーを作っていきたいと思います。

夏の演奏会に向けて「水のいのち」「ラシーヌの雅歌」の練習が始まります。平光先生のお話によると「水のいのち」は合唱曲の最高峰に位置する組曲だそうです。今からワクワクしますが、私たち団員一人ひとりが切磋琢磨し様々なシーンで技術的なレベルアップも図り、4パートによる素晴らしいハーモニーで夏の定演を成功に導きたいと思います。

「一人はみんなの為に みんなは一人の為に」

Glückliches Neujahr ! 謹賀新年

岐阜本部 バリトン 坂井俊郎

第20回目の節目を迎える今回の発表会では、思いの外自分は終始冷静に振る舞えたように思う。が、その一方で発表直後の興奮を引きずっている自分がまだいる。大阪城ホールでもこんなことは無かった。全てはあの**魂の注入**のお陰に違いない。

個人的には5年前の第15回から続けていることは、第九にせよ、ハレルヤにせよ、曲の長短に拘わらず歌詞をまず自分で書き下ろし、出来上がったそれを常に持ち歩くこと。音については、ICレコーダーにひたすら頼るのが自分の流儀。『最初はまずこの位置で練習してください。』最前列中央との運命的な出会いがあり、今も居座っているが、独特な居心地の良さがそこにはあったし、パートがバスで良かったと思う。本番ではマエストロ平光の眼、顔、指先など体の動きに合わせる、というよりひれ伏すのみ。

さて、冒頭の**“注入”**に戻りたい。朝10時からのロビーでの発声練習とストレッチ体操の後に現れたのが真由子先生。正確な診断時間は分からない、というより、時間を超越したものがそこにはあったと思う。冒頭だけを聞かれて、『ハレルヤの意味を知っている人手を上げて。』があった。以後の先生の“応急処置”

は確実に全員を変えたというより、蘇生させた。先生は、あの場で皆に4つの自覚を求めたかったに違いない。

- ① 言葉の意味を知ること
- ② 神を賛美する心をもつこと
- ③ 体を楽器にして唱うこと
- ④ 大きく口を開けること

体全体をフル稼働して所狭しと動き回って発信される数々の熱いメッセージを全身に浴び、真由子ワールドに浸り、間違いなく団員は覚醒した。練習後の皆の顔には感謝の気持ちが溢れていた。関わった人が変化・成長の様子を真由子先生は直に見られたに違いない。

あの時、必要な処置はあれしかないと言ったと直球ど真ん中の処置であったと、今でも思う。

ハレルヤに始まりゲッテルフンケンで終わる今回のステージは何よりも心を込めて唱うことが出来たと思う。

「来年も聞きたい、来たい。」発表の翌日、ある人からいただいたこの言葉を励みにこれからも精進したい。本年もよろしくお願いいたします。

♪ もう、おしまいなの？

岐阜本部 テノール 森田 進

11月28日(水曜日)岐阜市立城西小学校でスクールコンサートが行われました。

ヴァイオリン2名、ビオラ2名、チェロ2名、コントラバス1名、平光先生、伴和子先生の計9名の演奏会でした。デイズニーシリーズで始まり、楽器紹介、指揮者コーナー等など楽しく進められビリーブ、最後は校歌の全員合唱で終了です。全校生徒320名の内、特に低学年の生徒の中から、もう、“おしまいなの？”と、残念そうな声がありました。

子供たちのキラキラした目、多分初めて見るコントラバスの大きさに驚き、大変有意義な演奏会だったと思います。日頃、平光先生が言っているクラシック音楽の底辺の拡大に子供たちにクラシック音楽を体験させることで、岐阜を音楽溢れる街に、少しでも貢献できるよう、もっと多くのスクールコンサートが出来ると良いですね！！



岐阜市立城西小学校でのスクールコンサート

1～3 月練習予定

練習時間は 18:45～20:45 です(18:30 までに集合しましょう)

月 日	岐 阜	月 日	大 垣
1 月 10 日 (木)	長森コミュニティセンター	1 月 11 日 (金)	大垣市南地区センター
1 月 17 日 (木)	長森コミュニティセンター	1 月 18 日 (金)	大垣市南地区センター
1 月 24 日 (木)	岐阜・大垣合同練習 長森コミュニティセンター18:45～20:45		
1 月 31 日 (木)	長森コミュニティセンター	2 月 1 日 (金)	大垣市南地区センター
2 月 7 日 (木)	長森コミュニティセンター	2 月 8 日 (金)	大垣市南地区センター
2 月 14 日 (木)	長森コミュニティセンター	2 月 15 日 (金)	大垣市南地区センター
2 月 21 日 (木)	長森コミュニティセンター	2 月 22 日 (金)	大垣市南地区センター
2 月 28 日 (木)	長森コミュニティセンター	3 月 1 日 (金)	大垣市南地区センター
3 月 7 日 (木)	長森コミュニティセンター	3 月 8 日 (金)	大垣市南地区センター
3 月 14 日 (木)	長森コミュニティセンター	3 月 15 日 (金)	大垣市南地区センター
3 月 21 日 (祭)	長森コミュニティセンター	3 月 22 日 (金)	大垣市南地区センター
3 月 28 日 (木)	長森コミュニティセンター	3 月 29 日 (金)	大垣市南地区センター

音楽家の名言 2 より (vol-2)

- 子どもたちの前で演奏会をすることは 非常に意味があって、それはいい音を届ける以前に、大人が子どもたちの前で一生懸命やっていることを見せることだ
……カラヤン

大人たちが夢中に、一生懸命になって演奏して見せることが大事。子供たちはその姿に感動し、音楽の喜びと楽しさを実感するもの

- コンサートは、私の一生の楽しみなのです。……ラフマニノフ
ピアニストとして名声を誇ったラフマニノフは晩年病に苦しんだ。そんな時でも演奏活動を行うことがかれの生きがいであり、元気の源だった。

- 私は音楽家だ。それがすべてを語りつくしている。……マーラー
主にウィーンで活躍したユダヤ人作曲家、指揮者。歌曲や声楽を導入したユニークな交響曲によって知られている。

私は音楽家 =マーラーの魅力=

作曲家、指揮者として活躍したマーラーにとって音楽家であることが人生の全てでした。彼はその信念を尋ねられると、決まって上記のように語ったそうです。マーラーは音楽家としての誇りと自負を常に持って仕事にあたりました。芸術家という気まぐれな性格を想像しますが、マーラーはとても勤勉にコツコツと仕事をこなしました。ただし、とてもせっかちだったそうです。音楽をすることは、マーラーにとって宗教と同じく神に通じる道と信じていました。指揮者として多忙であつたにも関わらず、作曲の仕事にも使命を燃やしました。本当にやりたいことがあれば、時間なんてどうにでも作れるからです。

マーラーの音楽の魅力は、その多彩さにあります。ユダヤ人としての慟哭、生と死、人間存在の意味をといかけたかと思うと軍楽隊のマーチが響き、民謡調のメロディーが自然讃歌を歌い上げます。曲想は絶え間なく変化し、聖と俗が混然一体となって小宇宙を形成しています。現在、マーラーは人気の作曲家です。ストレスに悩む現代人にとって、様々に変化するマーラーの音楽に身を任せることが癒しの効果になっているのかもしれない。